

プラスチック食品容器の幹線輸送に『飛脚JR貨物コンテナ便』

岡山県に本社を置くシーピー化成(株)は、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、飲食店などで使用されるプラスチック食品容器の総合メーカーだ。1963(昭和38)年の創業以来、その開発・製造・物流・販売までを一貫して手掛ける。同社はパーパス『未来を、笑顔で、つつむ』を軸に、ビジョン『シーピー化成グループは、サステナビリティを第一に考え、実現する企業になります』を実行すべく、製品開発だけでなく、さまざまな分野でサステナビリティへの取り組みに力を入れており、容器の軽量化やバイオマスプラスチック製品の開発、リサイクル、CO₂排出量削減に向けた生産・物流体制の構築などを進めている。



木山センター長

他、テイクアウトやデリバリーに対応した容器が生まれるなど、食のサプライチェーンを担う重要なインフラとなっています」と話す。

中食や総菜需要の拡大、人手不足への対応、食品ロス削減

シーピー化成業務本部物流部本社物流センターの木山幸樹センター長は「プラスチック食品容器の登場により、衛生的で効率的な陳列・輸配送が可能となり、さまざまな食品が店頭に並ぶようになりました。時代の変化に伴い、プラスチック食品容器は季節感や催事を訴求する“器”としての役割を担うようになった

や環境問題等を背景に、弁当容器や発泡トレイなど食品容器に求められる機能や役割は多様化。「形状を工夫することによりシートを薄くしても製品強度を上げる、重ねやすい、ずれにくい、ストックしやすい、陳列しやすいなど、求められる機能はさまざま。弁当容器は素材や形状も多様で、テイクアウト用の寿司容器も需要が高い。機能性と環境配慮を両立した製品開発を推進している」という。

シーピー化成では北海道から九州まで全国に6つの物流拠点を設け、卸問屋へ商品を供給している。このうち本社物流センター(岡山県)から関東物流センター(福島県)向けの幹線輸送に、2023年8月より、佐川急便(株)が提供する『飛脚JR貨物コンテナ便』の利用を始めた。『飛脚JR貨物コンテナ便』は、トラック輸送と鉄道輸送を組み合わせた環境負荷の小さい輸送サービスで、鉄道利用の全般的な管理・サポートも請け負う。

同部の佐藤雅樹係長は「きっかけは、2024年問題です。輸送費の高騰、高齢化や働き方改革によるトラックドライバー不足に加え、荷役・荷待ち時間の削減要請がある中、物流事業者だけではなく、荷主である当社にも対応が求められています。トラック事業者にも改善案を出してもらっていますが、構造的な課題も多



佐藤係長



シーピー化成の弁当容器



積載を終え東福山駅へ向かう東福山合同通運の集配トラック



安全に積み付けるため作業台を設置



製品を出庫



積み順番、段ボールの向き、積み方に留意



1個目の積載完了



2個目も同様に積む



閉扉して封印環を付ける

く、将来的にトラックだけの輸配送では物流を維持できないかもしれないという危機感もありました。そこで、トラック輸送で業務を委託している佐川急便さんに鉄道利用について相談しました」と背景を説明する。

ベースの輸送モードとして



片山さん

鉄道区間は東福山駅から矢板ORSである。月曜日から金曜日まで12ftコンテナを2個ずつ発送するスキームで開始し、半年後は2個追加した。さらに、「長距離輸送かつ帰り荷確保が難しい」九州物流センター(熊本県)向け輸送も、2025年12月、週1回12ftコンテナ2個、熊本駅着で始まった。

同部の片山翔太さんは「鉄道コンテナ用の商品が決まっているわけではありませんが、比較的大きいサイズで安定感のある商品を選んでいきます。逆に重量のある商品や箱の小さい商品は避け、荷崩れ防止のため間に緩衝材を入れます。また、商品が濡れないよう、ドライバーさんには積み順番、段ボールの向き、積み方にも気を付けてもらいます。毎回パズルのように組み合わせるので、コミュニケーションを取りながら作業しています。本社物流センターの12ftコンテナへの積み込み作業は朝9時から始まり、10時半には出発、12時には東福山駅に到着する必要があります。当社、佐川急便さん、JR貨物とスケジュールを

共有しているので、安定した出荷ができます」と話した。

プラスチック食品容器メーカーの繁忙期は年末年始、大型連休などの前。波動はトラックで調整し、鉄道コンテナはベースの輸送モードとして機能している。

木山センター長は「貨物鉄道は道路渋滞の影響を受けにくく、比較的安定した運行計画を立てることが可能です。自然災害による遅延等を減らすため、鉄道のインフラが強化されることを望みます。シーピー化成は鉄道コンテナ輸送やRORO船による海上輸送なども活用し、安定供給とともに環境負荷低減、物流の効率化を目指し、多様な輸送手段を組み合わせた持続可能な物流体制の構築を進めています。中国地方と群馬県に自社の生産工場を持ち、グループ会社や協力会社とともに約8,000アイテムを作っていますので、今後もアイデアを出し合い、鉄道利用を進めていきたいと考えています。環境意識の高まりにより、貨物鉄道輸送の役割はさらに大きくなるでしょう」と展望した。



前列左からシーピー化成の大田さん、佐藤係長、片山さん、木山センター長、守屋係長、船橋課長代理、瀧本マネージャー。後列左から佐川急便の石谷課長、小林係長、下條課長、堀田主任、JR貨物岡山・四国支店今永支店長、同総合物流室の登尾室長、古屋係長(佐川急便より出向中)